

【書類名】 手続補正書
【あて先】 特許庁長官 羽藤 秀雄 殿
【事件の表示】
【審判番号】 不服2012- 1280
【出願番号】 特願2008-505632
【補正をする者】
【識別番号】 507334738
【氏名又は名称】 キメリクス, インコーポレイテッド
【代理人】
【識別番号】 100099623
【弁理士】
【氏名又は名称】 奥山 尚一
【発送番号】 120282
【手続補正1】

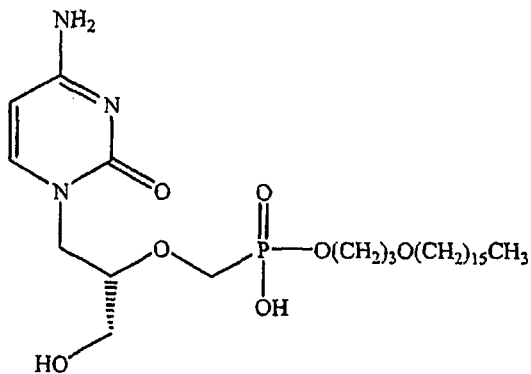
【補正対象書類名】 特許請求の範囲
【補正対象項目名】 全文
【補正方法】 変更
【補正の内容】

【書類名】 特許請求の範囲

【請求項1】

薬理的に有効な量の下記の構造を有する化合物または医薬上許容可能されるその塩と、少なくとも1つの免疫抑制剤とを含む、ウイルス感染を治療するための医薬組成物であって、前記ウイルス感染は、アデノウイルス、オルソポックスウイルス、HIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、サイトメガロウイルス、単純ヘルペスウイルス1型、単純ヘルペスウイルス2型又はパピローマウイルス感染である、医薬組成物。

【化1】



【請求項2】

前記免疫抑制剤は、シクロスポリンである、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項 3】

前記免疫抑制剤は、FK-506である、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 4】

前記免疫抑制剤は、ラパマイシンである、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 5】

前記化合物及び前記免疫抑制剤は、医薬上許容される担体中で組み合わせて、または交互に投与される、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 6】

前記化合物及び前記免疫抑制剤は、経口、局所および非経口投与から選択された同一も

P. 2

しくは相違する経路によって投与される、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 7】

前記ウイルス感染は、アデノウイルス感染である、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 8】

前記ウイルス感染は、HIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、サイトメガロウイルス、単純ヘルペスウイルス 1 型、単純ヘルペスウイルス 2 型又はパピローマウイルス感染である、請求項 1 に記載の医薬組成物。

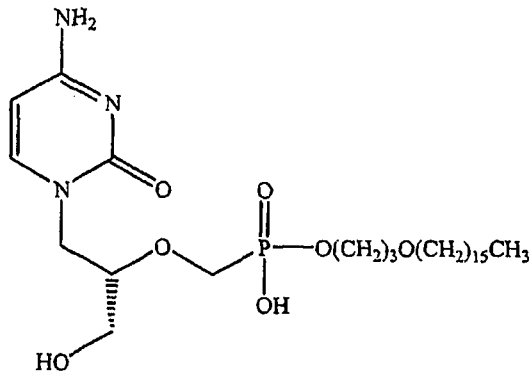
【請求項 9】

前記ウイルス感染は、大痘瘡 (variola major)、小痘瘡 (variola minor)、ワクシニア、天然痘、牛痘、ラクダ痘、マウス痘、ウサギ痘およびサル痘からなる群から選択されるオルソポックスウイルス感染である、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 10】

アデノウイルス、オルソポックスウイルス、HIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、サイトメガロウイルス、単純ヘルペスウイルス 1 型、単純ヘルペスウイルス 2 型及びパピローマウイルス感染から選択されるウイルス感染を治療するための薬剤の製造における、有効量の下記の構造を有する化合物または医薬上許容されるその塩の、免疫抑制剤と組み合わせた、または交互の使用。

【化 2】



【請求項 1 1】

前記免疫抑制剤は、シクロスポリンである、請求項 1 0 に記載の使用。

【請求項 1 2】

前記免疫抑制剤は、FK-506 である、請求項 1 0 に記載の使用。

【請求項 1 3】

前記免疫抑制剤は、ラパマイシンである、請求項 1 0 に記載の使用。

【請求項 1 4】

前記ウイルス感染は、アデノウイルス感染である、請求項 1 0 に記載の使用。

【請求項 1 5】

前記ウイルス感染は、HIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、サイトメガロウイルス、単純ヘルペスウイルス 1 型、単純ヘルペスウイルス 2 型又はパピローマウイルス感染である、請求項 1 0 に記載の使用。

【請求項 1 6】

前記ウイルス感染は、大痘瘡、小痘瘡、ワクシニア、天然痘、牛痘、ラクダ痘、マウス痘、ウサギ痘およびサル痘からなる群から選択されるオルソポックスウイルス感染である、請求項 1 0 に記載の使用。

【請求項 1 7】

前記化合物は免疫抑制剤と組み合わせて投与される、請求項 1 0 に記載の使用。

【請求項 1 8】

P. 3

前記化合物は免疫抑制剤とともに連続的に投与される、請求項 1 0 に記載の使用。

【請求項 1 9】

前記化合物は免疫抑制剤の投与前に又は免疫抑制剤の投与に続いて投与される、請求項 1 0 に記載の使用。

【請求項 2 0】

前記化合物は免疫抑制剤とともに繰り返して投与される、請求項 1 0 に記載の使用。

【請求項 2 1】

前記化合物は経口投与される、請求項 1 0 に記載の使用。

【請求項 2 2】

前記化合物は $0.001 \text{ mg/kg} \sim 2000 \text{ mg/kg}$ の用量で投与される、請求項 1 0 に記載の使用。

【請求項 2 3】

前記化合物は $1 \text{ mg} \sim 500 \text{ mg}$ の用量で投与される、請求項 1 0 に記載の使用。

【請求項 2 4】

前記化合物は $10 \text{ mg} \sim 500 \text{ mg}$ の用量で投与される、請求項 2 3 に記載の使用。

【請求項 2 5】

前記化合物は 5 mg/kg の用量で投与される、請求項 2 2 に記載の使用。

【請求項 2 6】

前記化合物は 20 mg/kg の用量で投与される、請求項 2 2 に記載の使用。

【請求項 2 7】

前記化合物は 30 mg/kg の用量で投与される、請求項 2 2 に記載の使用。

【請求項 2 8】

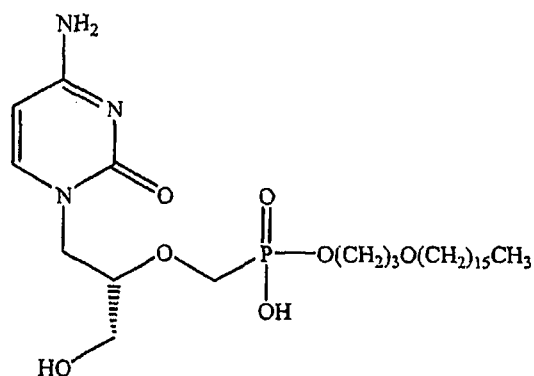
前記化合物は 35 mg/kg の用量で投与される、請求項 2 2 に記載の使用。

【請求項 2 9】

医薬上有効量の下記の構造を有する化合物またはその医薬上許容されるその塩と、少なくとも一つの免疫抑制剤とを含む、ウイルス感染を治療するための医薬組成物であって、

前記ウイルス感染は、インフルエンザ、ペスチウイルス、古典的ブタ熱ウイルス、ヒツジのボーダー病ウイルス、フラビウイルス、黄熱病ウイルス、西ナイルウイルス、日本脳炎ウイルス、水疱一帯状疱疹ウイルス、ヒトヘルペスウイルス 6 型、エプスタインバーウイルス、ヘルペス 6 型、ヘルペス 8 型、伝染性軟属腫ウイルス、S I V、H I V-1、H I V-2 またはエボラウイルス感染である、医薬組成物。

【化 3】



【請求項 3 0】

前記ウイルス感染は、アブセットアローブ (Absettarov)、アルフイ (Alfuy)、アポイ (Apoi)、アロア (Aroa)、バガザ (Bagaza)、バンジ

(Banzai)、ボウボウ (Boubou)、ブスクアラ (Bussuquara)、カシパコール (Cacipacore)、カーレー島 (Carey Island)、ダ

P.4

カーコウモリ (Dakar bat)、デング (Dengue) 1型、デング2型、デング3型、デング4型、エッジヒル (Edge Hill)、エンテベコウモリ (Entebbe bat)、ガジェット・ガリー (Gadgets Gully)、ハンザローバ (Hanzalova)、ハイパア (Hypr)、イレウス、イスラエルシチメンチョウ髄膜脳炎、日本脳炎、ジュグラ (Jugra)、ジュチアパ (Jutiapa)、カダム (Kadam)、カルシー (Karshi)、ケドーゴー (Kedougou)、ココベラ、Koutango、クムリンゲ (Kumlinge)、クンジン (Kunjin)、キヤサヌール森林病 (Kyasanur Forest disease)、Langat、跳躍病、Meaban、Modoc、モンタナミオチス白質脳炎、マレー溪谷脳炎、Naranjal、Negishi、Ntaya、オムスク出血熱、プノンペンコウモリ、ポワッサン (Powassan)、リオ・ブラボー (Rio Bravo)、ロシオ (Rocio)、ロイヤルファーム、ロシア春夏脳炎、サボヤ (Saboya)、セントルイス脳炎、Sal Vieja、サン・ペリータ (San Perlita)、Saumarez Reef、セピック (Sepik)、Sokuluk、スpondウエニ (Spondweni)、ストラトフォード (Stratford)、テムブス (Tembusu)、Tyuleniy、ウガンダS、ウスツ (Usutu)、ヴェッセルスブロン (Wesselsbron)、西ナイル、ヤウンデ (Yaounde)、黄熱病およびジカ (Zika) からなる群から選択されるフラビウイルス感染である、請求項29に記載の医薬組成物。

【請求項31】

ウイルス感染の治療のための医薬の製造における、効果量の下記の構造を有する化合物または医薬上許容可能なその塩と、免疫抑制剤と組み合わせた又は交互の使用であって、

前記ウイルス感染は、インフルエンザ、ペスチウイルス、古典的ブタ熱ウイルス、ヒツジのボーダー病ウイルス、フラビウイルス、黄熱病ウイルス、西ナイルウイルス、日本脳炎ウイルス、水疱一帯状疱疹ウイルス、ヒトヘルペスウイルス6型、エプスタインバーウイルス、ヘルペス6型、ヘルペス8型、伝染性軟属腫ウイルス、SIV、HIV-1、HIV-2またはエボラウイルス感染である、使用。

【化4】

